

小塚山公園拡充予定地の整備を考える会

第2回WS配布資料

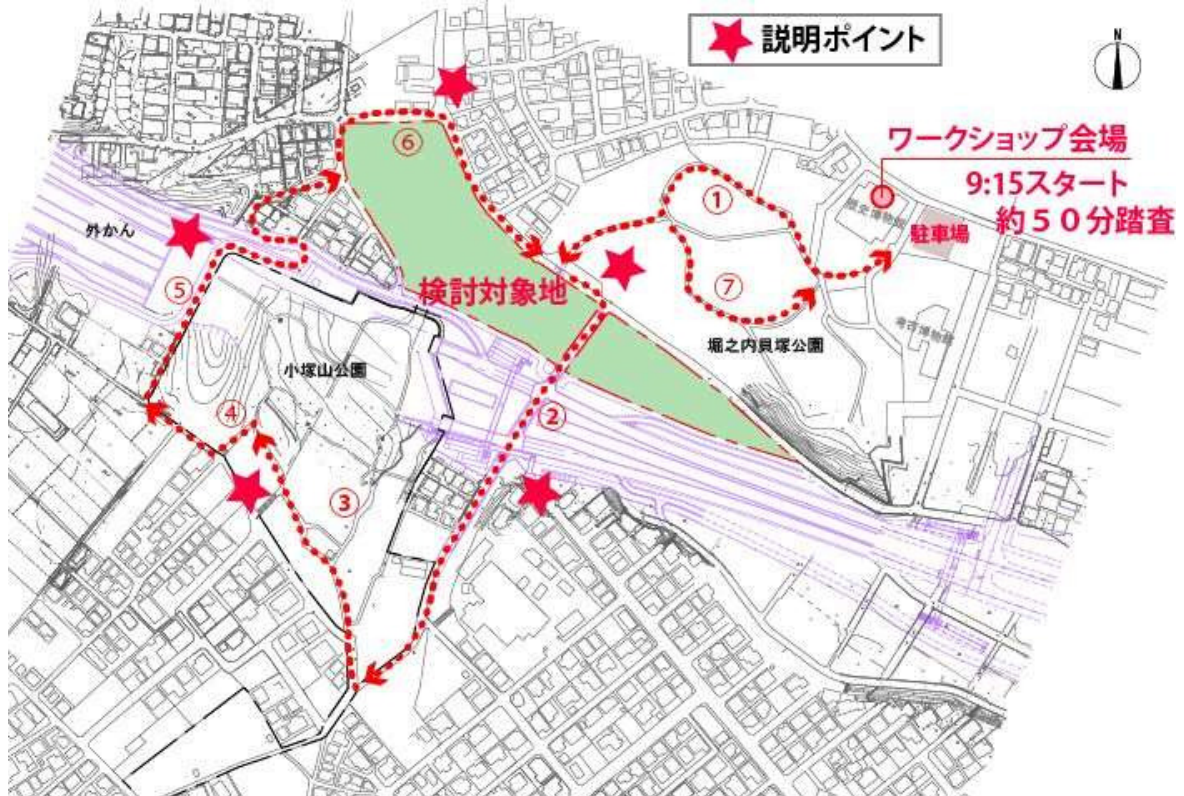
平成28年10月18日

当日のメニュー

| | |
|---|---|
| 1. 前回の振り返り..... | 2 |
| 1.1 現地踏査..... | 2 |
| 1.2 前回の意見の概要..... | 2 |
| 1.3 おさらい、山崎先生の総評から..... | 2 |
| 2. 今回の検討内容..... | 3 |
| 2.1 第2回：基本設計素案の検討（導入施設・機能選定と配置／空間構成）..... | 3 |
| 2.2 比較検討素案..... | 4 |
| 2.3 論点..... | 8 |

1. 前回の振り返り

1.1 現地踏査



1.2 前回の意見の概要

- ・ ニュースレター参照

1.3 おさらい、山崎先生の総評から

1.3.1 検討の重点・留意点等

(1) 過去検討会の重点

- ・ 外環道の整備への対応・・・(ちいきの生活環境に対して種々のマイナスインパクトが想定される中で) 安全な街づくりを主眼にしながら、計画地で何が出来るか?を検討

(2) 今後の検討での留意点：3つの【み】+2

- ・ 1【みどり】：既存資源の活用・・・(計画地との連携)
- ・ 2【みち】：アクセス・・・「道路に囲まれた敷地」というマイナス面にうまく対応する工夫を検討し、(ゆっくりできる) 穏やかな公園づくりを目指す
- ・ 3【みず】：安全な形で水の活用を図る・・・谷津田のシンボルとして原風景を再生

- ・ 【みんなの視点】：周囲との関係性を考慮し、どんな人がどう使うかを吟味しながら、みんなが納得できるように検討
- ・ 【見通し、見晴らし】：周辺の森に対して、計画地は明るい空間である敷地特性を活かした計画づくり

2. 今回の検討内容

2.1 第2回：基本設計素案の検討（導入施設・機能選定と配置／空間構成）

2.1.1 【比較検討素案の提示】概略平面図と主要部のイメージ

- ・ 第1回の各グループの意見交換内容を受けて比較検討素案を作成し、意見交換のたたき台として提示
- ・ この素案検討のベースとなった考え方は、以下に示したような共通意見

- **【基本方針】**
 - ・ 計画地及び周辺の自然環境を生かした「原風景再生」と「人と生きものにやさしい空間づくり」が望まれる。
- **【核・テーマとなる施設等】**
 - ・ 水の導入は必須・・・谷津田を貫く「小川」のイメージの再現と、子どもたちが生きものと触れ合える環境づくりが望まれる。（幼児の遊び空間（遊具）・スポーツ広場等への意見はなし。）
- **【ゾーニング】**
 - ・ H14年の計画を基本的に受け継ぐ（生きもののための連携空間としての役割を強く意識）が、樹林地の配置については位置の変更も含め、検討が必要である。
- **【参加体験施設】**
 - ・ 原風景として谷津田のイメージは残したいが、稲作を継続的に行うことは維持管理面から困難である。

2.1.2 【整備の方向性を調整】

(1) グループ討議

- ・ 素案をベースに、3班に分かれて意見交換し、基本設計案として取りまとめる方向性を絞り込む。・・・各案のどこをどう取り入れてまとめるのが望ましいか

- 主な機能・施設の取捨選択と配置（参加体験空間や子供の遊び場のあり方等を含めて）
- エコブリッジ周辺の高低差処理の仕方（小塚山公園既設部との連携のあり方）
- 空間構成：≪森・樹林地≫≪広場・芝生地≫≪水面・湿地≫等の配置バランス等
自然環境保全創出や観察体験／明るく活動的な遊び空間づくり・・・等の目標重点と呼応



- ・ 前掲の3つの【み】+2、後掲した論点とともに、以下を意識しながら検討を進める。

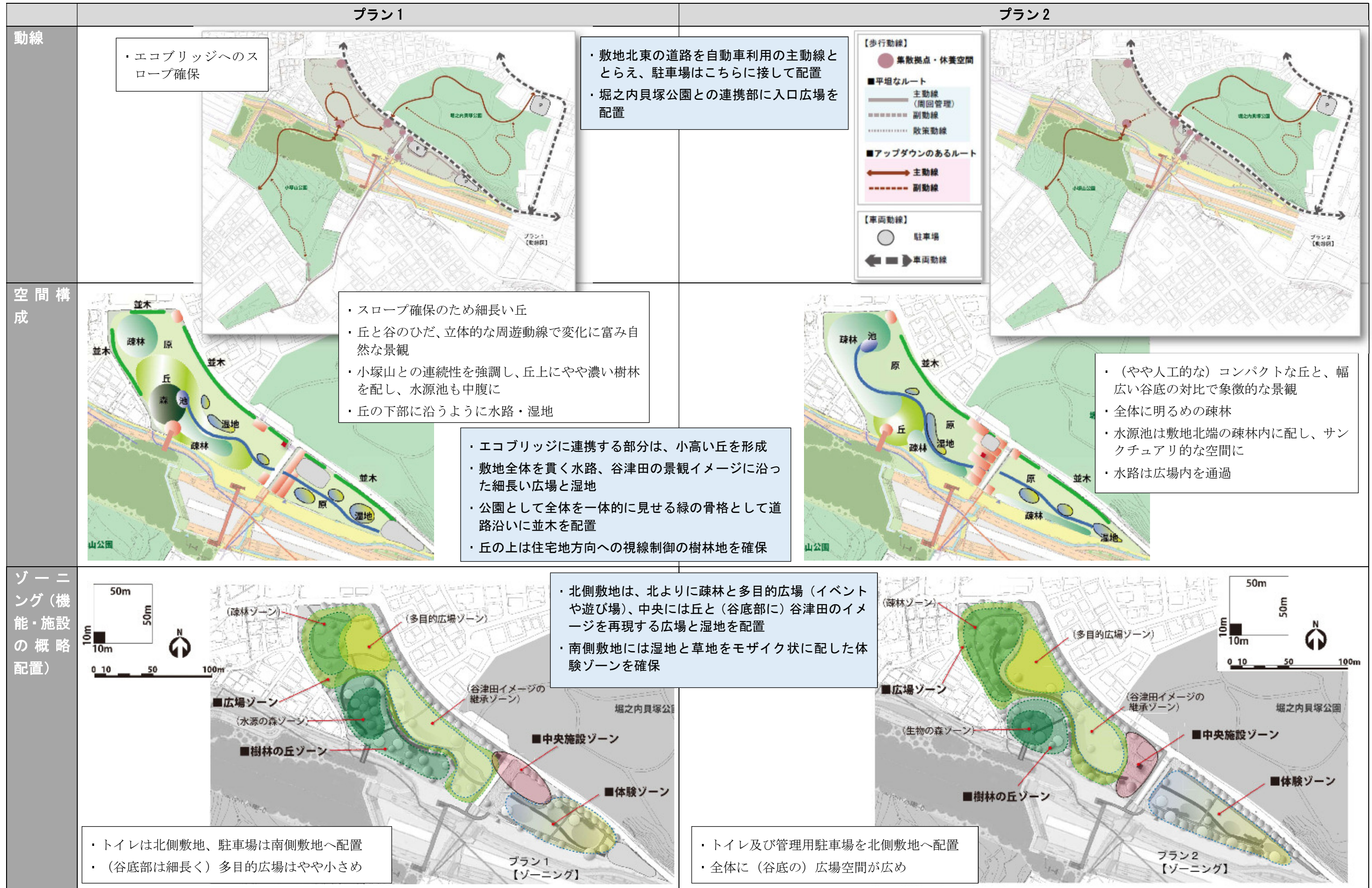
- ①予算（限られた枠の有効活用・・・整備の優先順位／施設規模／整備水準）
- ②維持管理（官民の分担、住民の参加型管理を見据えて）
- ③将来ニーズ（地域の住民構成の変化・世代交代に備えた導入機能・施設／余地）

(2) 全体での意見交換

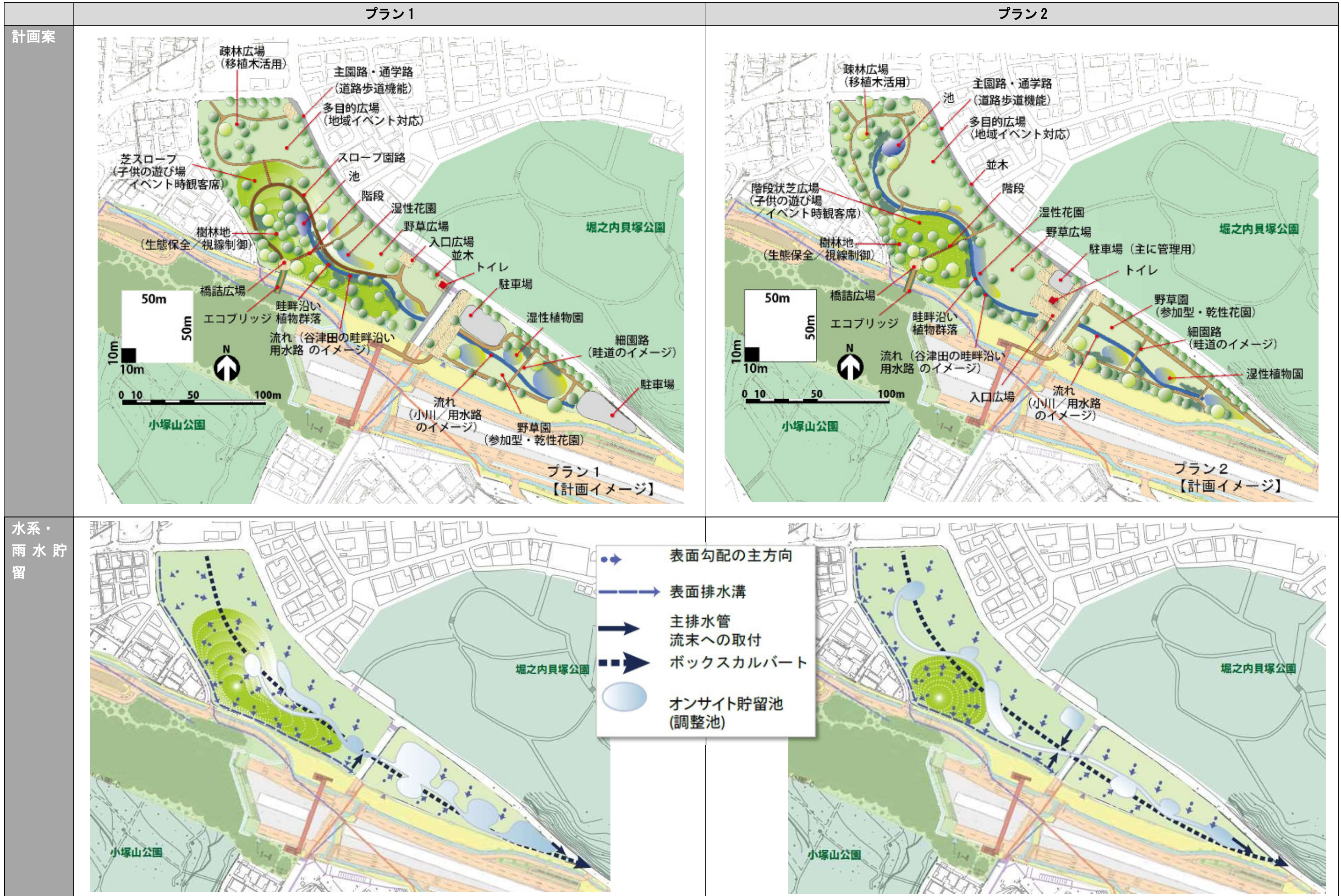
- ・ 各グループの検討成果を発表し、全体で質疑・意見交換を行う。
- ・ 意見の傾向をその場で整理・調整し、第3回で提示予定の基本設計素案につなげる。

2.2 比較検討素案

2.2.1 ゾーニング・空間構成／動線

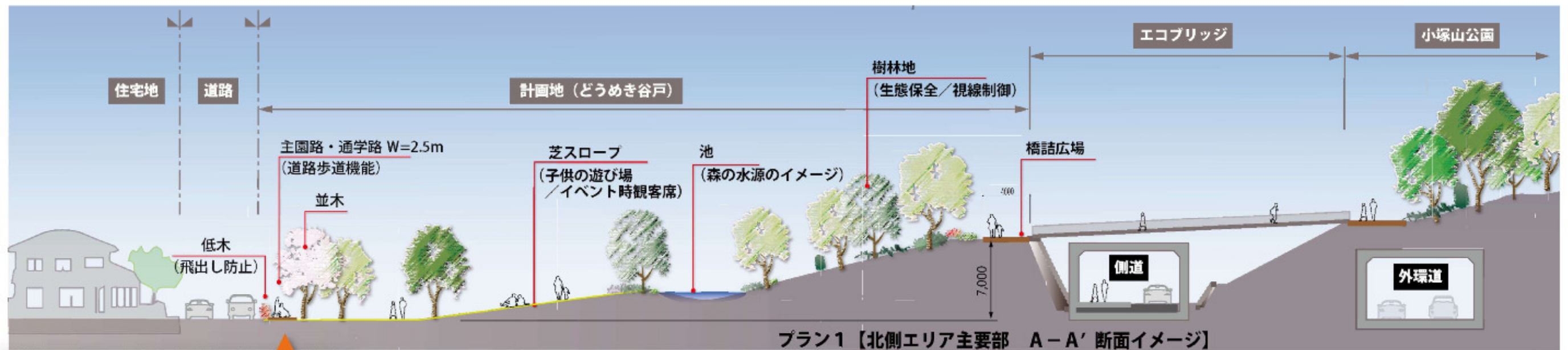


2.2.2 計画案／水系：雨水排水・貯量の考え方



2.2.3 断面イメージ

(1) 北エリア



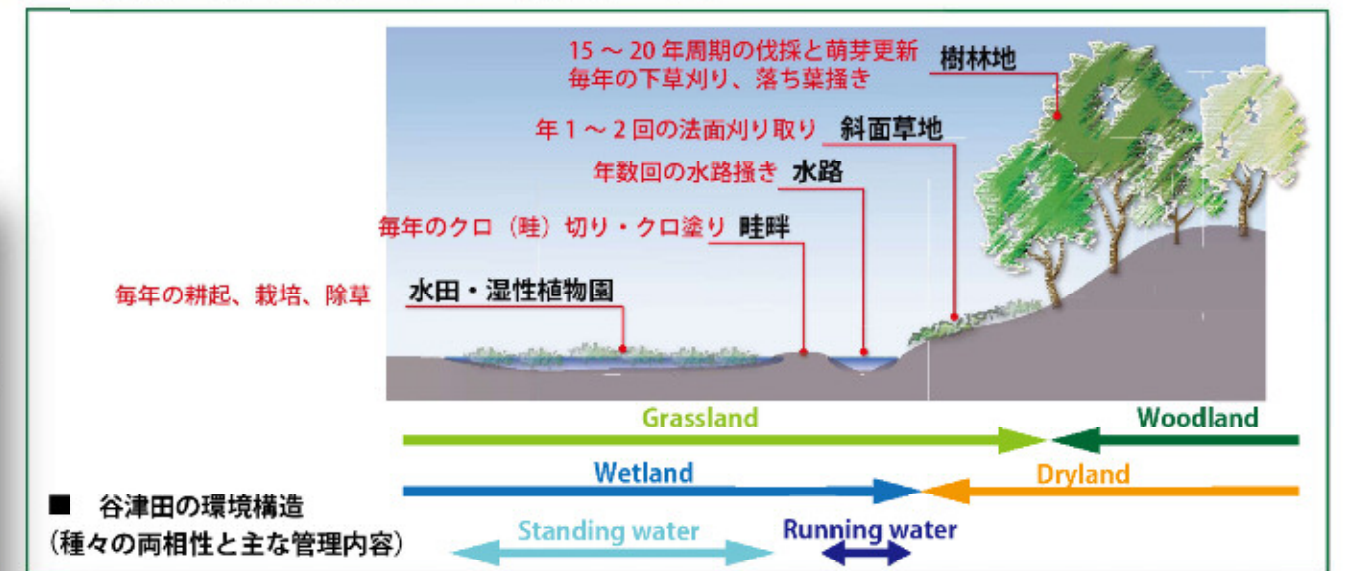
プラン1【北側エリア主要部 A-A' 断面イメージ】



プラン1【北側エリア】



プラン2【北側エリア】



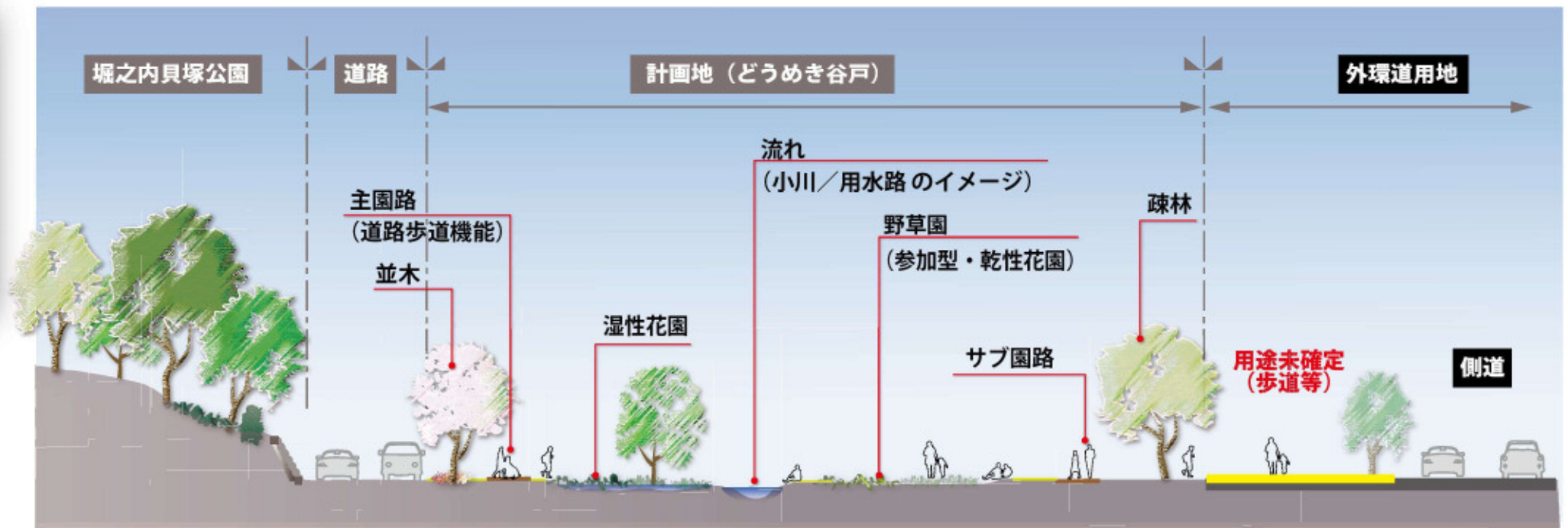
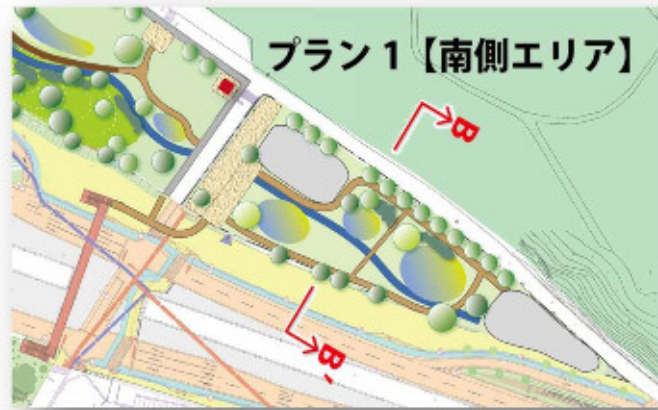
■ 谷津田の環境構造 (種々の両相性と主な管理内容)



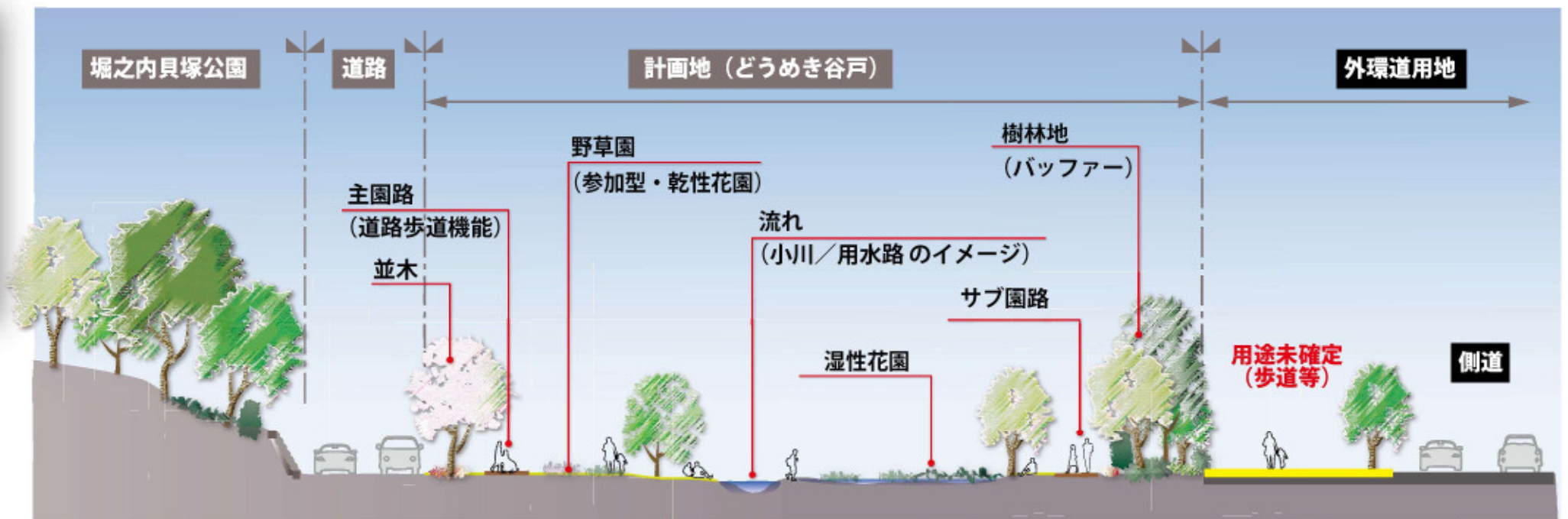
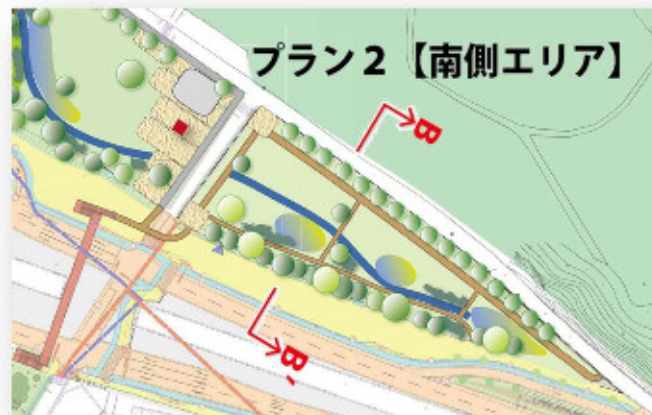
プラン2【北側エリア主要部 A-A' 断面イメージ】



(2) 南エリア



プラン1【南側エリア主要部 B-B' 断面イメージ】



プラン2【南側エリア主要部 B-B' 断面イメージ】



2.3 論点

以下に示したような点を意識しながら意見交換を進め、基本設計案の方向を絞り込む。

相反する視点・対立軸が、比較検討素案（プラン1とプラン2）で明確に対比されて図示されているものが多いが、各プランで太差ないもの・共通しているもの・図中に表現されていないものも含んでいる。それぞれの項目について最適と思われる選択肢とそれらの組み合わせを検討する。

2.3.1 整備上の基本方針

(1) 水の扱いについての基本方針

- ・ 導入予定の「水」については、近接する北総線の地下に湧出する地下水を使用予定である。現在水質・水量について調査中で、場合によっては大がかりな浄化や滅菌処理（塩素消毒等）が必要となる可能性もある。子供が池や流れに入って遊ぶ（口に水が入る）ことを優先すると生物は棲めない空間となり、生物を優先させれば活動は自然観察程度に限定される。
- ・ また計画地では史跡調査の必要があり、来年度試掘開始予定である。遺跡の出土等、場合によっては整備工事において30cm程度しか掘削できなくなる可能性もあり、その場合には水路の形状が大きな制約を受けることも想定される。
- ・ 現在の提示案では、大きく南北に分かれる敷地の全体を貫く形でプランを提示しているが、以上のような状況に応じて、水を導入する範囲を限定せざる得ない場合も考えられる。・・・その場合には、どこでどんなタイプの水を導入するのが望ましいか？

| タイプA | タイプB | タイプC |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境保全・・・いきものための水環境の創出（かつての農業用水路、野原の小川等のイメージ）【中に入って遊ぶことは想定しない】 ・ プラン1とプラン2で共通する方針 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 遊びの水・・・じゃぶじゃぶ池等 【中に入って遊ぶことを想定】 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 人工的な修景の水・・・眺めるだけ 【中に入って遊ぶことは想定しない】 |

(2) （谷津田の）原風景の再生のあり方／体験施設の考え方

- ・ **水田が（住民主体では）管理できない・・・という前提で、以下の示した「谷津田」の定義の中で、どの部分を重点に再生視点をとらえるか**

■ 【地形的特性】

- ・ 横断：両側の丘・樹林地に挟まれた細長い平地（緩い傾斜・小さな段）
- ・ 縦断：谷底部の小区画分割型の土地利用（その奥行に沿って管理強度が変化）
 - **両側の丘・樹林地と一体で細長い敷地を貫くビスタの強調、モザイク状の土地利用**

■ 【景観的特徴】

- ・ 谷中央部は、明るい開ける見通しの良い空間／春のゲンゲ～田植え前の水面～青田～秋の豊かな実り、畦の草花、隣接樹林の新緑～紅葉～冬景色・・・等が季節変化を美しく彩る。
 - **水田景観をイメージさせる湿地・四季の花等を導入・・・湿性花園、花菖蒲園等（林床のアジサイ、畦のヒガンバナ等もセットで）**

■ 【生物多様性】谷津田に特徴的な両生類を例に

- ・ 成体の非繁殖期の生息空間である樹林地、繁殖および幼生の成長の場としての水田・水路、亜成体が一定期間生活する畦畔や法面の草丈の低い草地、越冬地となる落葉の溜まる湿った谷下端（景観セットでもある田面、畦畔（あぜ）、ため池、水路、斜面裾の法面草地）
 - **様々な生物の生活環上必要となる緑地要素をセットで保全・創出**

■ 【利用／役割・存在価値】

- ・ 大人には懐かしく、子供には生き物と触れ合う場を提供し、情操教育の場として寄与
- ・ 「農」の空間として利活用することで、地域の文化と農業への理解を深め、食育にも寄与
 - **（かつての農業文化につながる）自ら守り育てる空間づくり→参加型野草園・花壇等**

2.3.2 異なる意見／相反する視点

(1) 池（水源）と水路の配置・デザイン等

- ・ 環境保全と動的な活動空間確保等の対立も含めて

| | プラン1 | プラン2 |
|----------------------------|---|---|
| サンクチャアリゾーン 谷頭・源流部の位置・形状 | ・エコブリッジにアプローチする高低差を活用して「小高い丘の樹林地」を形成し、 <u>谷頭の自然な水源のイメージ</u> を演出 | ・敷地北端にやや濃い樹林地を形成し、その中に池を配置（谷津田最奥部に設置された溜池のイメージ） |
| 水路の配置・構造・デザイン | ・斜面林に沿った敷地西側部の配置（谷津田の畦畔に沿った水路のイメージ） ・ プラン2の北側の一部も | ・敷地中央部への配置（野原を流れる明るい小川のイメージ） ・ プラン1の南側も |

(2) 駐車場の規模・配置

| | プラン1 | プラン2 |
|-----------|--|--|
| 駐車場の規模・配置 | ・公園内に配置（①中央施設付近、②広域利用を考慮して最も自動車アクセスしやすい敷地南端部に配置） | ・公園内に配置しない（管理用等の最低限にとどめ、周辺での駐車場用地確保を検討する。） |

(3) エコブリッジ周辺の構成

| | プラン1 | プラン2 |
|---------|---|--|
| 植栽 | ・濃い目の樹林地（小塚山の樹林地との連続性を高め、生物生息環境の保全・育成に寄与） ・水源池周囲の植栽へ連続 | ・明るい疎林（見晴台として見通しを確保）・・・住宅方向への視線制御を意識した樹林地の濃淡を検討 |
| 造成 | ・自然な斜面地形の形成・・・影響範囲が広くなり、平坦面が少なくなる） | ・やや人工的な階段状の空間・・・草花等を活用しシンボリックな空間演出も可能 |
| アプローチ動線 | ・スロープの確保・・・5%勾配とすると150m程度の距離が必要となる。造成形態もこれに合わせる必要があるため、平坦な広場面積は小さくなる。 | ・階段だけで対応・・・周辺の平坦空間を広く有効活用しやすい（階段と一体で、ジグザグのスロープ確保も可能） |

(4) 便益・管理施設（トイレ・駐車場等）の配置

| | プラン1 | プラン2 |
|------------|---------------------------------|----------------------------|
| 便益・管理施設の配置 | ・人が集まる場所は、猛禽類の営巣木とできるだけ距離をとって配置 | ・歩道橋、堀之内貝塚公園の出入り口と連携しやすい配置 |

(5) 外縁部の植栽等

| | プラン1 | プラン2 |
|-------------|-------------------------------|-----------------------------------|
| 道路沿い | ・濃い樹林、並木の形成 | ・オープンな景観、樹木点在 |
| 外環側（南西側）境界部 | ・一体空間として活用（隣接歩道を公園の一部として取り込む） | ・樹林、並木での仕切り（バッファー形成を優先、一部で出入り可能に） |

2.3.3 その他の計画上の留意点等

(1) 雨水貯留施設の配置

- ・市街化調整区域の開発にともない、一定の雨水調整機能を確保する。

| タイプA | タイプB | タイプC |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・水路沿いに確保（周辺広場部より10～20cm程度低い「水路敷き」を設定して遊水機能を付加）・・・水位変動による自然な「かく乱」が生ずることで生物多様性についてはプラスとなるが、安全管理面ではややマイナス。維持管理の工夫も求められる ・プラン1とプラン2で共通する方針 | <ul style="list-style-type: none"> ・主に駐車場敷地を利用して雨水貯留空間をまとめて確保・・・湛水後の清掃等はいりやすく、維持管理上は効率的 | <ul style="list-style-type: none"> ・最下流部に「調整池」を整備（立ち入りを規制するフェンス等で囲む必要があり、土地利用） |

(2) 防災空間・災害時の活用イメージ

- ・災害時の活用イメージ：【発災直後】一時集合場所、【発災後数日】避難空間・物資配布等の支援空間、【復興期】仮設住宅用地としての活用・・・木造住宅地に面した位置の防火樹林帯の確保、支援活動に向けた駐車場との連携も含めた（平坦な）広場空間の配置と規模

(3) 広場のイメージ

- ・地域のイベント活用の使い勝手、想定されるイベントと必要な規模について
- ・斜面を利用した遊び場の確保について・・・エコブリッジに連なる傾斜の活用（芝滑り等の活動や地形に合わせた遊具の配置等）、平場と斜面のスムーズなつながりについて

(4) バリアフリー

- ・バリアフリールート・エリアの設定について：隣接する既存公園内の園路は、バリアフリーとなっていない。計画地内をバリアフリーとしても、周辺の回遊ネットワーク形成は困難

(5) 貝塚公園との連携

- ・入口広場・・・道路に面した顔づくりについて

(6) 植栽

- ・環境保全型の公園全体イメージに合わせて、植栽樹種の基本構成については、地域のポテンシャルを考慮して（地域の現存植生・潜在自然植生の構成種から）選定することを想定。
- ・（鳥類の誘引を意識した）実のなる木等の積極的導入等
- ・並木については、目標イメージ（季節ごとの景観形成イメージとして望ましい樹種、逆に忌避すべき樹種等）について